



## 狭心症と心筋梗塞



国保成東病院  
診療部長(内科)  
滝澤 太一 医師

心臓は、1分間に60～80回、1日約10万回、収縮と拡張を繰り返し、全身、肺から血液を集め、全身に血液を送るポンプの働きをしています。心臓自身、筋肉でできており、動いているので酸素や栄養をもらわなければなりません。その役目をしているのが、心臓の周りを走行している冠動脈という血管です。

血管は、加齢とともに動脈硬化が進みますが、糖尿病、高血圧、高脂血症、喫煙、肥満（危険因子と言います）などによって動脈硬化の進行が早まり、冠動脈の内腔が狭くなることがあります。内腔が狭くなると血液が流れにくくなります。特に運動をした時は、心臓は激しく動くのでた

くさんの血液が必要になりますがそれに見合うだけの血液が流れません。そのため「これ以上心臓は動けません」という危険信号ができます。

### 危険信号

危険信号は「胸が痛い」などの形で出ます。これが狭心症です。代表的な症状としては運動時の左胸が絞めつけられる、圧迫されるような痛みです。左腕、喉、腹、背中に痛みを感じることもあります。冷汗を伴うこともあります。糖尿病の方は、痛みを感じにくくなっていることがあります。特に朝方や寒い所のほうが血管が緊張しやすいので症状が

出やすいようです。ズキンとするような一瞬の痛みや局所的な狭い範囲の痛みは狭心症でないことがほとんどです。

冠動脈が血の塊（血栓）によって詰まってしまう病気を心筋梗塞といいます。血管の内側の膜が傷つき、そこに血の塊ができるのですが、やがて動脈硬化

の血管をつなげる手術などがあります。心筋梗塞の場合には、不整脈などにより心臓が急に止まってしまうこともありますので、できるだけ早く、スタッフ、設備が整った医療機



適度な運動で適切な体重のコントロールを

時でも持続します。

狭心症には、薬や手術による治療があります。薬としては、血管の緊張をとる、心臓の負担を軽くする、血液を固

まりにくくすることで心筋梗塞を予防するものがあります。またカテーテルという細い管を用いて狭い血管を広げる治療やバイパス手術といって別

関での治療が必要になります。カテーテルを用いて血管の詰まりをとることによって心臓の機能の低下を防ぎます。

いろいろな治療がありますが、一番大切なのは、狭心症や心筋梗塞の原因は動脈硬化ですので、禁煙や適切な体重のコントロール、高血圧、糖尿病、高脂血症などの危険因子の治療をすることです。

問合せ 国保成東病院地域医療連携室 ☎(82)2521